






ブックトーク『夏目漱石の登場』 3年対象 5月24日(金) 1校時…2組、2校時…4組、3校時…1組、4校時…3組、5校時…5組			
場面	原稿	本の写真	生徒の反応
1	<p>今日はブックトークをします。3年生はしたことのある人もいますとききました。ブックトークとはテーマをもとに本を紹介していく方法。つまり本のCMです。今回のテーマは「夏目漱石の登場」。それでは始めます。</p>		夏目漱石の部分で、少しくすくすと笑いがおきる。
2	<p>1冊目は『神様のカルテ』。読んだことありますか？嵐の櫻井くんで映画にもなりましたし、2010年本屋大賞第2位になりました。</p> <p>(表紙をゆびさしながら)表紙に二人の人物が書かれています。男の人のほうは、医師5年目の栗原一止先生。</p> <p>彼は長野県にある24時間営業の地方病院に勤めています。病院には当直というのがありますよね。彼が当直の夜は、救急の患者が多く、1.5倍くらいになるそうです。同僚からは「引きの栗原」と言われています。</p> <p>彼にはカメラマンをしている奥さん「ハルさん」がいて、ハルさんのことを「嫁さん」とか「奥さん」とは言わず「細君」、漢字で書くと細い君と書きますが、そう呼んでいます。ちょっと古風な言い回しをする人なので病院の看護師さんたちからは「変人ドクター」とも言われているようです。</p> <p>どんなふうに古風なのかというと、ちょっと読んでみます。</p> <p>(読む ちょっと勢いよく、途中からは、～とかなんとかとか言って省略)</p> <p>昔の人みたいな話し方ですね。みんなこんな口調の本ってよむ？</p> <p>どうして古風な言い方をするのか、その理由もわざわざ初めのほうで説明しています。</p> <p>(読む)</p> <p>学童期っていつか分かりますか？小学生のときです。この栗原先生は、小学生のころから草枕を覚えるほど読んでいたのですね、言葉遣いが古風なのは、大好きな夏目漱石の影響を大いに受けていたのです。</p> <p>作者は夏川草介さん。これはペンネームで本名ではありません。</p> <p>ご自身も、主人公の栗原先生と同じように、信州大学医学部卒業後、長野県の地方病院にお勤めです。そのためか、病院の現場が抱える問題なども書かれています。栗原先生の話し方は古風ですが、中身はあたたかで優しい雰囲気の小説です。</p> <p>他の場所でも夏目漱石の作品が絡んでいるところがありますよ。</p>	 <p>「なんたる～青年医師が」(P5 1行目～4行目)</p> <p>「ちなみに～こういうことになる。」(P7 14行目～16行目)</p>	<p>読んだことのあると手をあげた生徒は全クラスで数人。</p> <p>省略するとき、「うんちゃかんちゃ」といったら、どういう意味？と聞いている生徒がいた。</p> <p>病院の先生が小説を書いたというと、視線が集まった。</p>

<p>この小説は夏目漱石が好きな人が主人公でしたが、次の本は主人公が夏目漱石を好き・・・というわけではありません。</p>		
<p>この作品、『図書館の神様』です。</p> <p>まずは作家さんの紹介から。作者の瀬尾まいこさんは山本先生と同じように、中学校の国語の先生をされていました。今は退職されて、執筆活動をされています。</p> <p>この本は高校の文芸部顧問になった先生の話です。この先生、赴任先の高校で、文芸部の顧問になります。文芸部には垣内くんという部員が1人しかいません。中学の時はサッカー部だったという彼は、けがをしたわけでも、暗いわけでもありません。垣内君は文学が好きで文芸部に入っています。</p> <p>一方この女の先生は国語の先生なのに、文学に詳しいわけでも、本をたくさん読んでいるわけでもありません。なのでいつも垣内君に本のお話を聞きながら話が進んでいきます。</p> <p>本の中に出てくる作品は文学作品といわれるものです。三島由紀夫とか、川端康成とか。太宰治とか芥川龍之介は聞いたことある？国語の便覧に乗っている文学作品ですよ～と授業で習ったけど読んでないわっていうような本ばかりです。でもさすが切り口がおもしろい。あらすじを教えて、こんなことが読み取れるから読んでみて！という話ではなく、ストーリーの中で紹介されています。たとえば、川端康成の本の紹介をすると、シチュエーションは放課後、部活の時間です。川端康成の研究をしている垣内君の前には本が数冊あります。先生は「それっておもしろいの～？」といいながら1冊選んで読み始めます。すると、ぷぷぷと笑い出します。「どうしたんですか？」と垣内くん。「鼻血が」と先生。話しに出てくる女の子が好きな人の家で鼻血をだしてしまうのよーというのと、さすが垣内君、「ほかにもありますよ」と『骨拾い』という小説を紹介します。</p> <p>こんな風に言われたら、ちょっと気になりますよね。</p> <p>さっき言った三島由紀夫も、この中では「ボディビルをしていた」ってだけ紹介がされているんですよ。そんな人がどんな小説を書いたのか気になりますね。</p> <p>ここまで来て、「夏目漱石、出てこないじゃん」って思った人もいるでしょう？</p> <p>もちろん、夏目漱石の本もここに紹介されています。『こころ』と『夢十夜』です。</p> <p>『こころ』は先生とKというひとが登場します。先生とKは親友なのですが、先生はKを裏切ります。そのせいでKは自殺してしまいます。先生はその罪を胸に持ったまま、時が過ぎ、先生は自分を慕ってくれる生徒にだけ誰にも言わなかったその秘密を打ち明ける…というお話。</p> <p>この話は高校の教科書にのっているのですが、授業中一人の生徒の具合が悪くなったため、先生は題</p>		<p>山本先生のお名前を出すとにこにこ反応あり。</p> <p>昔の作家を知っているかの質問に、</p> <p>三島由紀夫 ほぼ知らない 川端康成 ほぼ知らない 太宰治 だいたい知っている 芥川龍之介 知っている</p> <p>芝居がかってすると男子がニヤツとした。</p> <p>うなづく</p> <p>『こころ』のあらすじ紹介では、声を抑えてささやくように言うと視線が集中。 Kが自殺という、「えー」</p>

<p>材を変えたいから垣内君なんかいいのいない？と相談します。そしたら、垣内君が紹介してくれたのが『夢十夜』でした。</p>		<p>とささやく声。</p>
<p>その『こころ』と『夢十夜』が図書館にあったので紹介します。『こころ』は長編なので、マンガの「こころ」から読んでみるのもいいかもしれません。『夢十夜』は短いといましたが、これくらいの（夢十夜の分量を見せながら）分量しかありません。「こんな夢を見た」で始まる夢にまつわる話10編です。</p> <p>では、第一夜のはじめを読んでみるので、想像力を働かせながら聞いてください。 （第一夜、初めから9行目まで読む）</p> <p>はいここまで。</p> <p>様子わかりましたか？女の人が長い髪を枕に広げて寝ていて、「もう死にます」と言っています。男の人は、女の人を上から覗き込むようにしながら、「もう死ぬのかね？」と聞いているんです。「もう死にます」と言って女の人が閉じていた眼をパッチリとあけると、目の玉は白い部分がなくて全部真っ黒だった…という様子ですね。</p> <p>この男の人と女の人話は続きます。</p> <p>こんな風な夢の話が10篇入っていますので、長いのが苦手という人はこちらからどうぞ。</p> <p>私は第3夜が怖かったです。</p>	  	<p>皆が静まってから、ゆっくり間を置きながら読む。</p> <p>目が全部真っ黒という様子が浮かばない子もいたので様子を解説。</p> <p>朝読でもどうぞといったが、朝から怖い話は…という反応もあった。</p>
<p>小説の中には、初めに紹介した2冊のようにその中で本を紹介してあるものがあります。</p> <p>読書をするとき、次は何を読もうかな思うことがあるでしょう。同じ作家の作品を読む、友達の紹介を読むも方法ですが、こんな風に作品の中にある作品を読んで広げていくのもいいかと思います。</p> <p>これでブックトークを終わります。</p> <p>ありがとうございました。</p>		

〈生徒の感想から〉

- ・面白かった、読んでみたいと思った。
- ・興味がなかったけど挑戦してみようと思った。
- ・夏川草介の名前からして、夏目漱石が好きなのかと思った。
- ・どうしてみんな夏目漱石がすきなのか不思議だった。
- ・本の中に本があるということにおどろいた。
- ・他のブックトークも聞きたい。
- ・文学についても興味を持ちました。
- ・難しかった。みんなが読みやすい本のほうがよかった。

〈次に聞きたいブックトークのテーマ〉

- ・図書館戦争
- ・ホラー系
- ・スポーツ系
- ・宮沢賢治の本
- ・外国人作家の本
- ・山田悠介の本
- ・みんなが知っている本
- ・3年生にお勧めの本
- ・笑える本
- ・アニメの本

〈ブックトークをしての感想〉

初めて顔を合わせる生徒も多く、私も緊張したが、生徒も緊張していたのか午前中のクラスは反応も少なかった。5校時の5組は数人の男子がいろんな反応をしてきていたので、拾いながら話せたかなと思う。夏目漱石に興味を持ってくれた生徒もいたし、また本の中に紹介されている本から読書を広げる方法を伝えられたのでよかった。

神様のカルテを古風な先生が登場する話と紹介したので、ちょっと難しい話だと思った生徒もいたようで、もう少し内容を話してもよかったかと思う。